魚沼「新之助」生育情報 第2号

令和４年６月９日
魚沼農業普及指導センター

○生育調査結果（気象感応ほ、JA 展示ほ 平均田植日：5/21）

	草丈(cm)	茎数（本/㎡）	葉数（葉）	葉色（SPAD）
本年	28	94	5.6	32.0
指標値	28	180	6.5	35.0
指標値比・差	100%	52%	-0.9	-3.0

【生育の概要】

・田植後の高温多照により、活着、初期生育は良であったが、６月上旬の低温等の影響により、生育は指標値に比べ、草丈：並　茎数：少　葉数：やや少　葉色：淡い状況である。

・今後１週間は(6/11～6/17)は気温が低く、曇りや雨の日が多いと予報されている。（北陸地方１か月予報 新潟地方気象台６月９日発表）

・中干しまでは浅水管理で分げつの発生を促し、茎数確保を図る。また、新之助は茎数が増えやすい品種なので、田植え後 25 日頃に茎数を確認し、遅れずに中干しを実施する。

【今後の管理のポイント】

1　早期茎数の確保

・ 水温が低く生育が遅れているほ場では、日中の止め水と浅水管理で地温の上昇を図り、分げつの発生を促す。

・ 表層剥離などで分げつの発生が抑制されている場合は、必要に応じて、夜間落水や水の更新を行う。

2　適期に中干し開始

・ 新之助は茎数が増えやすい品種なので、中干しで茎数の増加を抑えることが食味・品質基準を達成するポイントである。

・ 中干しは、遅くとも田植えの１か月後をめやすに目標穂数の 80%程度の茎数（1 株あたり 17 本程度、㎡あたり 304 本）を確保したら直ちに実施する。

3　溝切りは必ず実施

・溝切りは生育調節、秋作業の地耐力確保及びフェーン時及び秋の長雨等緊急時の迅速な排水とかん水のため、必ず実施する。

4　いもち病対策

・病害虫防除所から管内に「準感染好適条件」が 6/6～7 に出現したとの連絡があった。

・伝染源となる補植苗は直ちにほ場外に持ち出し処分する。

・箱施用剤を使用していない場合は、必ず水面施用粒剤による防除を行う。